

## 札幌市立幌北小学校の取組

### 1. 研究のねらい

本校は平成13年に学校ビオトープが作られ、これまでの実践では、子どもたちが北大に行って植物や昆虫・魚などを調べたり、ビオトープに植物を新たに植えたり、昆虫を放したりするといった活動をしてきた。現在は3年生や環境委員会を中心に、理科や総合の学習や環境整備など、ビオトープの活用を工夫している。

本年度は特に、“専門的な知識や経験のある外部人材”と連携しながら、ビオトープの植物や昆虫を調べる活動をすることで、子どもたちが、“生き物と環境とのかかわりについて深く考える”という視点でビオトープを見ていくことをねらって取組を進めることにした。

### 2. 取組内容

#### (1) 日赤奉仕団との花植え活動（3年生 理科～総合）

##### ①目標

「植物を育てよう」「学校を花いっぱいにしてよう」などのねらいで、北区土木部や町内会からいただいた花を毎年榊花壇に植えている。

植物について自分で調べたり、育て方について学んだりするだけでなく、命あるものを育てることの喜びや責任感について考えている。

また、地域の方々とのふれあいを通して、地域のために行えることを見直すようにしている。

##### ②学習の様子

理科や総合的な学習の時間では、教材として育てる植物の種を観察するとともに、この活動で実際に植える花のことを調べた。花植え活動当日は、植える深さや水のやり方といったお世話の仕方など、グループごとに関わってもらいながら活動することができた。

その後は、朝の水やりや雑草抜きなどの日常的なお世話を続け、地域の榊花壇コンテストで表彰されるほど、愛情をもって関わるすることができた。

#### (2) ビオトープ大作戦（3年生 総合）

##### ①目標

3年総合的な学習「ビオトープ大作戦」では、ビオトープについて調べることで、ビオトープや自然環境への関心を高め、自分たちがビオトープや自然に対してできることを考えた。また、自分たちの手で整備したビオトープや、ビオトープの未来について他学年や地域の方に紹介する活動に取り組んだ。

特に、植物が子孫を残す手段について調べ、ビオトープの未来を考えることから、小学校に在籍している間だけでなく、将来的に自分が行うことを見通すことができるよう工夫した。

##### ②学習の様子

四季を通してビオトープの様子を観察し、変化を探した。葉が茂り、花が咲き、実や種ができ、そして枯れていく…といったことを子どもたちは実感をもって学ぶことができた。



植え方の説明



ふれあいながら…



ビオトープを美しく…

ゲストティーチャーとしてご来校いただいた環境プラザの方から、「ビオトープの種さがし」の指令を受けた。様々な種を見付け、その標本を作製し、それを分類したところ、風で飛ばされる…動物に運ばれる…等といったいくつかのグループに分けられることに気付いた。さらに、未来のビオトープをどうしたいか、将来の自然環境イメージは?といったことも考え、自分たちでできることについても考えを深めることができた。



ミッション「種さがし」



種の標本を作ります



分類してみると…



未来のビオトープ

### (3) その他

開校 80 周年記念事業、「夢づくり支援事業」と連携して、ビオトープの整備を行った。池や橋の整備をしたり新たな植物を植えたりして、子どもが活用しやすいビオトープづくりに心がけたのである。

さらに、環境プラザの「アウトドア環境教育研修（教職員向け）」に参加して、身近な自然やビオトープを活用した学習のあり方についての講習を受け、校内におけるビオトープ活用に関する取組を検討するなど、環境プラザ職員の方に来校していただく 3 年生のビオトープ学習につなげることができた。



橋の整備や・・・



新しい植物も・・・

## 3. 成果と課題

### (1) 成果

環境プラザの方をゲストティーチャーとしてお招きし指導いただいた「ビオトープの種さがし」の学習によって、子どもたちは自分たちのそばにある自然の営みに改めて気付くことができた。これは、子どもたちの生物への興味関心だけでなく、自然への愛情・環境保全への意識の高まりにつながったことでもあり、本実践における非常に大きな成果と言える。

また、幌北地区日赤奉仕団（連合町内会）をはじめとした地域との結び付きが強く、本校の大きな特色の一つであり、今後もこの絆を深めていきたい。併せて、本年度ご支援をいただいた環境プラザの皆さんとのパイプも財産であり、本校の総合的な学習の時間の中に位置付け、絶やさずに続けていきたいと考えている。

### (2) 課題

当初予定していた北大その他の機関との連携は、十分とはいえないものがあつた。せっかく近隣に北大があるものの、なかなか子どもだけで行けない場所となっている。地域の自然の減少とともに、子どもたちの日常的な自然とのふれあいの不足は否めず、子どもの活動環境を改善していくことは、課題であるといえる。